

第2回 下北地区統合校検討委員会  
【会議録】

令和5年9月14日（木）

むつ市企画政策部企画調整課

1. 日 時 令和5年9月14日(木) 14:00～15:07

2. 場 所 むつ市役所 大会議室A

3. 出 席 者 【委員】

高橋 興	青森中央学院大学	特任教授
阿部 謙一	むつ市教育委員会	教育長
内田 大輔	むつ商工会議所	会頭
半田 義秋	むつ市川内町商工会	会長
千葉 栄美	大湊高等学校	校長
山田 誠	むつ工業高等学校	校長
岩渕 崇	むつ市連合PTA	会長
堺 祐介	大間中学校PTA	会長
畑中 貢	東通中学校PTA	会長
濱田 大臣	むつ工業高等学校PTA	会長
又村 彰	大湊高等学校同窓会	会長
木村 努	むつ工業高等学校	同窓会 会長
佐々木 一浩	大湊高等学校	後援会 理事長

欠席：越後林 達巳 大畑町商工会 会長  
古川 誠 風間浦中学校PTA 会長  
伊藤 輝貴 佐井中学校PTA 会長  
種澤 博之 大湊高等学校PTA 会長  
吉田 成人 むつ工業高等学校 後援会 理事長

【オブザーバー】

○青森県教育委員会

外崎 学	高等学校教育改革推進室	室長
森 三奈子	高等学校教育改革推進室	室長代理
渡部 裕介	高等学校教育改革推進室	主事
加藤 寛隆	学校施設課	課長代理
宿野部 大	学校施設課	主事

○町村

橋本 直哉	東通村教育委員会	参事・教育次長
村上 純一	風間浦村教育委員会	教育長
小原 広基	横浜町教育委員会	教育長

## 【事務局】

角本 力	企画政策部	部長
福山 洋司	企画政策部	政策推進監
品田 加奈子	企画政策部企画調整課	主幹
関 元徳	企画政策部企画調整課	主査
藤井 ほのか	企画政策部企画調整課	主事

## 1. 開会

## 2. 事務連絡

《委員変更のお知らせ及びオブザーバーの紹介》

## 3. 徳島県立阿南光高校 視察報告

大湊高校校長の千葉です。

私からは、昨年9月に行きました視察の報告を行います。

スライドは10枚程度、10分程度で簡単に御報告させていただきます。

徳島県立阿南光高校に行ってきました。なぜ徳島なのかというと、実は総合学科は平成6年からその制度がスタートして、現在全国に374校あります。

設立当初は、今もそうですが、普通科の一般的なものをジェネラルに学ぶということではなく、専門の学科を深く学ぶということでもなく、双方のいいところを取って、生徒たちが主体的に教科を学びながら選りながら進んでいくという理念でスタートしたのが総合学科です。

現在374校あるうちで、総合学科と工業科が統合して一つの学校にある学校は9校あります。

9校のうちでも工業科だけではなくて、農業科や演劇科、別の科も一緒になっているところもあり、フィフティフィフティの統合で、かつ2クラスから3クラス程度ずつの統合というのは実は全国で2つしかありません。

兵庫県の富岡総合高校と、この阿南光高校になります。

兵庫県のほうは、平成15年にスタートしておりますので、かなり歴史が古いです。

阿南光高校は、平成30年に開校しておりますので、その開校のときの苦労や、校舎の施設など、そのようなものを視察するために行きました。

むつ工業高校から教頭先生を含めて3名、大湊高校から私を含めて3名、そして県教育委員会から2名の8名で行っております。

(資料2ページ)

これが徳島県と青森県の比較です。見ていただければわかると思いますが、70万人に対して、青森県は120万人、現在も人口はどんどん変わっていますし、学校の統廃合に関して

徳島県もそうですが、ものすごいスピードで変わっておりますので、これは現在のところの数字ではないということも御承知おきください。令和4年7月現在で作っております。それにしても徳島県のほうが圧倒的に統廃合が進んでいて、1校当たりの人口の比較を見ていただければわかるかと思えます。

阿南光高校は、阿南市にあります。むつ市と比較すると、むつ市より少し人口が多いです。学校名がたくさん並んでいるため、たくさんあるような気がするかもしれませんが、定員数でいうと年少人口の7,497人に対して定員数595人ですので、むつ市と比較すると定員の数が人口に比べて少ない状態になっていることがわかつておきます。

(資料3 ページ)

これが阿南工業高校と新野高校が合併し、阿南光高校になった図です。

3学科だった工業科と、4系列を持っていた総合学科が統合しました。

平成27年にその計画が発表され策定され、平成28年に開設準備委員会、平成29年に開校推進委員会ができ、平成30年4月に開校しております。

3つの工業の学科、3クラスの3学科、そして、産業創造科これは総合学科のことですが、3クラス、5系列を持つ学校になっております。

(資料4 ページ)

これが今、下北で統合校ができるという計画の状態です。

むつ工業高校3学科、大湊高校今4クラス4系列ございます。

それが令和3年11月に再編計画が策定されて、令和7年、8年、9年とこれから進んでいきます。

下北地区の統合校は、もう既に様々な議論を経て策定されているもので、工業科の方は機械科と電気エネルギー科ということで決定されております。

ただ、系列の方は現状維持を基本としつつ、開設準備委員会の意見を経て決定するとなっておりますが、現状維持だとするとこの4系列になるということで書かれております。

よく誤解されますが、クラスと系列は違いまして、クラスが3クラスでも5系列や6系列という学校があります。

(資料5 ページ)

これが阿南光高校の教育課程です。

何をどのように学ぶかということですが、細かいことは後ほどゆっくり見ていただきたいと思います。2年生3年生で、総合学科と工業科を貫いた選択科目があります。

それが選択AとかBとかCとかEとかです。

例えば、工業科の生徒で進学する生徒が小論文概論だったりとか、工学部に進学した場合は物理などの授業を取ることができます。

それから総合学科の中でも、工業に興味がある生徒がいたら、例えば自動車工学とか、工業技術基礎とか、興味に応じてそれぞれ別の学科の授業が取れるようなカリキュラムになっ

ておりました。

(資料 6 ページ)

これが授業の様子です。

食物生産や、それからその流通のようなところに少し重きを置いた総合学科だったように思います。その他は大学に進学するための学科だったりしました。

(資料 8 ページ)

これは部活の様子です。

実は新野高校は、25 年前に一度甲子園に出ている名門校です。

ただ、どんどん生徒の数が減ってきて、ずっと甲子園から遠のいていました。

ところが、統合して阿南光高校になって、令和 3 年に甲子園に出場しております。

校長先生は、統合し生徒数が多くなり部活が活性化し、甲子園に行けたと思うという話をしていました。この写真に写っている投手はプロに行ったそうです。

(資料 9 ページ)

統合による変化について、いろいろ伺ってきて、参考になるものをまとめてみました。

どちらの校舎も昭和の時代にできた非常に古い校舎だったものが、校舎新築によって教育環境が今に合った形で充実をしたということ、また、それぞれ先細りだったところが一つになり、生徒数が多くなったことで、様々な教育活動が展開され、教員配置も多くなり、授業や部活が活性化され、さらに生徒の進路選択の幅が広がったと聞いております。

先ほどカリキュラムの中にもありましたが、工業科の中で進学する生徒のサポートがとても手厚くなり、総合学科で、工業科に来る就職枠、例えば事務系などであれば総合学科の生徒達も、そこに就職していくというような状況になったということでした。

(資料 10 ページ)

これが最後のスライドになります。

大湊高校の視点からお話をさせていただきます。

私が実際に行ってみて、感じたことがこの大きく 4 つに集約されたものになります。

1 つは、閉校となる新野高校の校舎利用のあり方について、タスクフォースが立ち上がったそうです。

議論がされ、実はこの計画が最終的に確定するまで、地元の反発がものすごかったそうです。統合といえども、町から高校が消えるということに対し、少子化が進んでいる中で、地域の住民の寂しさと、虚しさが、おそらくあったのではないかと。駅前に統合反対というのぼりが立ったそうです。

しかし統合が発表され、決定した時に、大反対していた人たちが一番の味方になったと校長先生はおっしゃっていました。

そして、新しくなったときにどうやるのか、校舎が 1 つ空きになってしまうけど、それを

地域の力で何とかできないかなどが話し合われたようです。

実際にも、例えば土日にマルシェのようなものを新野校舎で開く、体育館を地域で使う、徳島大学工学部が校舎を一部利用するなど、みんなで知恵を出し合い地域の人々と共に考えていったとおっしゃっていました。

それから2つ目ですが、結局は統合はシステムとか設備とかではなくて、中で働く教員の姿勢なんだなというのはとても思いました。

実は阿南光高校の他に、城西高校というところにも行ってきました。そこは農業科と総合学科が一緒になったところですよ。お話を伺っていたら、農業科の先生と総合学科の先生がとても仲が良く、農業の実習に総合学科の生徒が来た時に、最初はいやいや土をいじっていたけど、とても良くなったよね、こういうところに就職したよねなど、そういう話を教員同士がしているのがとても印象的でした。

結局、教員同士がお互いに理解して助け合うということがとても大事だと思います。

3つ目です。

統合は融合ではないので、それぞれの学科の良さをしっかりと持って、プライドを持ってやっていくべきだと思います。

工業は、縦の学びです。専門に決めたことを必死で積み上げていくような学びで、総合学科は逆に横の学びです。いろんなことに挑戦して、悩んだり、時々立ち止まったり、でも、自分の意思で選択をして、系列を選択をして進んでいく、横の学びと縦の学びが一つの学校にあるということは、それは実は困ったことではなくて、多様性という観点からすれば、とても素敵なことなのかなと思います。

それぞれがそれぞれの特徴をしっかりと持った上で、それでも全く質の違う学びをしている生徒たちが同じ行事をやる、同じ部活に一緒に入る、学年という横串が刺さって、例えば一緒に修学旅行に行くなど、そういう活動の中で、生徒たちは様々なことを学ぶということを確認してきました。

そして最後ですが、総合学科としての進路保証と特色化が必要であり、一緒に行った私を含め3人の教員が未来は今なのだと思います。

令和9年度ではなく、今の大湊高校の総合学科をもっと魅力的に、生徒たちがもっと悩み、もっと選び、そしてそういう活動を地域も含めてみんなで支援し、そしてそれぞれの進路保証をしっかりとしていくという、そういう総合学科を作っていないと、工業科など、長い間いて、プライドを持ってやっているところに、言い方が正しいかどうかわかりませんが、負けてしまうんじゃないか。総合学科としてのプライドを生徒にも教員にも持って行こう、令和9年度からではなく今からそういう学校を作っていこうと教員とともに決心をして、今様々な活動をしているところです。

最後の方は大湊高校からの視点ということになりましたが、これが阿南光高校に行ってきた、私が見てきたこと、考えてきたことになります。

議論の土台というか、イメージする時にご利用いただければと思います。以上です。

(事務局)

ただいまの説明に対し、ご質問等はございませんでしょうか。

(半田委員)

各高校の統合する前の生徒数は何人でしょうか。

(千葉委員)

阿南工業高校が、平成 27 年入学が 114 名、平成 28 年に 108 人になっています。  
新野高校が、生徒数が 77 名となっています。

(半田委員)

現在の大湊高校、むつ工業高校の生徒数は。

(千葉委員)

大湊高校は全校で 411 名です。

(山田委員)

むつ工業高校は 258 名在籍しています。1 学科は定員 35 名です。

(半田委員)

わかりました。

(事務局)

他にご質問等はございますでしょうか。

(木村委員)

令和 3 年度の今の高校(阿南光高校)の進学率と就職率はどうなっているのでしょうか。

(千葉委員)

きちんと数字が出てきませんが、大体、大学進学私立を含めて 3 割、専門学校 3 割、就職 4 割という感じだったように記憶しておりますが、正確な数字は資料を見るとわかりますので後ほどお伝えいたします。

(木村委員)

大体で大丈夫です。

先ほど話していたように、統合した結果、就職の部分で広がりがあったということを知り

たので、就職率がどのようなかたちになっているかを聞きました。

(事務局)

他にありますでしょうか。

(堺委員)

統合するにあたっての両校の部活動の兼ね合いについてと、最後の参考になったことについては、むつ工業高校の意見もお伺いしたいです。

(千葉委員)

1つ目の部活のほうですが、例えば新野高校は、長い歴史の中で、野球を頑張ってきたということがあったり、クレー射撃を頑張っていたりなど、それぞれの学校から、なくなった部活もあるかと思いますが、持ち寄ったものもあるようです。

あとは、阿南工業高校は圧倒的に男子が多かったので部活も例えばバスケットであれば、男子バスケット部しかなかったけれども、統合によって女子バスケット部もできたということを書いていました。

詳しい部活の一覧もいただいていますので、後ほど具体的にお伝えできるかと思えます。

(山田委員)

むつ工業高校は、1学年の募集は35名、それが3学科ですので105名の定数となっております。近年105名の定員が多少割れています。これは下北地域の生徒の数によるものです。

部活動に関してですが、生徒数が減っていて団体を組む競技の人数が必然的に減っています。例えば野球に関してもなんとか1チーム組める状況です。

あとは、総合学科と工業科の学科が一つになるということは、両方の良い部分が融合し、お互いに良い部分を逆に活用していくという視点に入っていかなければならないと思っています。

統合により、工業が3学科から2学科へ変わりますが、限られた学科の中で、子供たちに多様な学びと選択肢、そして結果、進路の充実に向けて学校をあげて取り組んでおります。

## 4. 議事

### 各委員からの意見発表

(高橋座長)

2回目の会議でございます。どうぞよろしく申し上げます。

それでは順次会議を進めていきたいと思えます。

前回の協議を踏まえて、今回は「新校舎の設計や施設整備、学科に関すること」にテーマを絞り、さらに開催案内に記載していた4つの検討例について、委員の皆様からご意見をい

ただきながら議論をしていきたいと思えます。

そういった意味では前回に比べてかなり具体的なところに議論が進んできたということですので、ぜひ委員の皆様方、積極的に御発言されて、新しい学校づくりにいいかたちで反映させるように進めていきたいと思えますので、御協力をお願いします。

なお今回も県教委からは室長はじめ、学校施設課の課長代理などに来ていただきました。質問がありましたら、できる範囲内で、しっかりとお答えいただくようお願いいたします。

まず初めに、第2期実施計画において総合学科3学級、工業科2学級と示されていますが、前回の検討委員会において委員から学科について協議が必要との意見をいただいておりますので、「子供たちが望む学科、地域が必要とする学科について」ご意見をいただきたいと思います。

こちらについては事務局より報告があるようですので、お願いいたします。

(むつ市企画政策部 福山政策推進監)

むつ市企画政策部政策推進監福山と申します。よろしく申し上げます。

ご報告させていただきます。現在むつ市議会第257回定例会会期中ですが、その中で先日行われた一般質問において、佐賀英生議員から市内の高校に新しい学科を作るべきだという提案がございましたので、その内容を御紹介させていただきます。

佐賀議員からは、下北地方は海に囲まれており、長きに渡り、海とともに生活をしてきた歴史があること、さらにむつ市には世界屈指の海洋研究所があることを挙げ、これらを生かし教育を提供しないのはもったいないとの意見を述べ、海洋学科やエネルギー学科など、全国にアピールできる学科の設置が必要だという御提案がありましたので、この場をお借りし御紹介させていただきます。以上となります。

(半田委員)

その時の市長の答弁を教えてください。

(むつ市企画政策部 福山政策推進監)

今、この検討委員会を開催して、この辺について議論していくことになっているので、この検討委員会の場に意見をお届けしますということで答えております。

(高橋座長)

委員の皆様、ただいまの事務局の説明に何かご質問ございますか。

(半田委員)

今、議会で特徴のある学科を作るべきと言う報告がありましたが、私もそう思います。

むつ市の学校に行かなければならないと思える特色ある学科は、ぜひ作るべきだと思うが、果たして県がどう言うかはわからないけれども、私は賛成します。

以上です。

(高橋座長)

他にございますか。

(阿部委員)

半田委員の御発言に対して私も同意するところであります。

議論をより真剣に進めるにあたって確認したいことがあります。

学科をひとつ作るとなれば、その免許を持つ先生を事前にしっかり確保しておく必要があります。

また、専門学科を要する学校となりますので、施設設備もそれに耐えうるものをあらかじめ準備しておく必要があります。

ご承知のように、第2期実施計画は県の教育委員会会議で定められておりまして、それは現在私どもが知るところとなっております。

先ほど阿南光高校が、統合前は、小学科3、そして4系列で、これはこの地区と全く同一で、非常に参考になると聞いていました。そして、令和9年度に小学科が2になります。

今現在、専門学科はどうするかという話ですので、総合学科は、議論から外して、専門学科、工業科をどうするかと考えた時に、先ほど申し上げたとおり、事前にしっかり人を準備して、そして場所を確保しておく必要があります。

従いまして、今卒業生がこの地区に600人、令和9年度には500人、5年して400人、さらに10年したら300人になります。令和9年度に作った校舎が、500人規模を対象にしている、そしてその校舎が10年したら300人の卒業生になります。そうした時に、どんな科が一番妥当なのか、先を見据えて考えていかなければならないと思います。

県教育委員会としては、もう既に決まっていることなのでということであると思います。重々承知しています。その上で、令和9年度に一番いいものを作っても、10年して子供が500人から300人に、200人に減った時に、一番いい教育を提供できなければならないので、そうしたときにどの科が必要で、そしてどんな施設設備がなければならないのか、そこをしっかりと考え、令和9年度の学校設備を考えていただきたいと考えておりまして、事務局が設定してくれた一つ目の議題の子供や地域が望む学科というのは、そういう意図があるものと私は感じておりますので、お含みをいただきたいと思います。

そして、先ほどからいろいろな意見があります。例えば土木であるとか、原子力であるとか、看護であるとか、そうしたものに関しては、一定の方向性を定めた上でそうしたものがしっかり出来る施設設備を令和9年度にしっかりとこの地に建ててほしい、そういうお願いを改めてすることが出来るのであれば、とても幸いに感じているところです。

そのために令和7、8年度に予定されている開設準備委員会、準備室を、出来れば1年2年前倒して、検討していただきたいし、私どももその場に同席させていただければとても嬉しく思います。

以上です。

(山田委員)

今学科が2学科になりますけれども、現行の学習内容について御説明いたします。

現行 JAMSTEC との連携を、現在むつ工業高校はさせていただいております。

子供たちが自主的に研究しながら JAMSTEC と研究しているわけですが、海洋における風力の状況、風向風力これらを漁業等に生かせないかという研究をしております。

ですから、学科名は機械科、電気エネルギー科という名称ですが、内容については現在取り組んでいる部分で、令和9年以降もこれは継続していきたいということで今やっています。

それらに付随して、この地域の様々な設備エネルギー科が担っている、あとは学校として取り組んでいる部分があります。今は測量関係ですね。地元の人材育成ということで、これも長きにわたって地元の企業、様々な県内の測量設計コンサルタント協会、これらとも連携しながら進んでいます。

要は、土木系列測量という技術者が、生徒の中に持っていただくということで学校ではずっとやってきて、エネルギー関係については、例えばむつ市との連携事業で、大間原発の発電設備見学やRFSリサイクル貯蔵の見学をやらせていただいております。

もう1つは同じくむつ市との連携で、非常に予算などの面倒を見ていただきましたが、原子力関係に関わる県内の施設見学等もやらせていただき、非常に感謝しております。

また、現段階で、エネルギーに関する部分、国の量子科学技術研究開発機構の出前授業等も続けています。

よって電気エネルギー学科という名称が残るわけですが、エネルギーに関する学習内容については、現在行っている部分を引き継ぐ、それから時代とともに今後生徒たちに提供していく。そういう学習内容で今取り組んでいますし、今後も取り組んでいきたいと思っています。

(高橋座長)

阿部委員の意見質問におよそ答えられたように思いますがいかがでしょうか。

(阿部委員)

質問に答えていただきありがとうございます。

もちろん、そうした教育活動をされていることは私も生徒の発表会に毎年行っているので、よく存じあげております。

ただここで確認したいことがあります。

学科が決まればそれに従って専門免許を持って指導出来る先生が配置されます。

そして必要な実習等が十二分に行われて資格が得られ、進路が保証されるということになります。

今申し上げた資格とか、あるいは進路とかが教育活動の中の一つのエポックのような、それが叶うものではないこともまた我々理解しなければならないと思います。

そうした教育活動がなされていることは承知しておりますが、学科としてそれが独立する

ことと、いろいろな学科の中でそうした教育活動が行われていることは決して同じではないと考えております。

従っていろいろなリソースが限られる中で、しっかり子供たちのために活動していただいていることは、とても感謝していますし、そのことに関しては全く異論はありません。

しかし、我々が今考えるべきは、学科をどうするのか、例えば、先ほど御紹介いただいた阿南光高校は工業系が3学科で定員が90名です。一番少ない学科の定員は25人になっています。現在青森県はそういうかたちになっていません。それが出来るのであれば、やはりそうしたことも模索するべきであると思いますし、それが出来ないのであれば、35人で2クラスの70人の募集の中で、どうしたら免許持ちの先生に来てもらい、どんな実習をしてなどをしっかり考えなければならないので、やはり教育活動にフォーカスするのは非常に危ういと思います。

しっかり学科、教育活動というものを我々は見なければならぬと考えています。阿南光高校は、参考になると思いますし、見せていただいた教育課程の中でも大学科、工業系専門学科等そして総合学科を両方を貫く選択科目が出来るのであれば、可能性が広がりますが現在においては大学科を越えた履修というのは保証されているものがないので、そうしたことをしっかり詰めて、実際に子供たちに提供できる、保証できるということまで、この検討会議で詰めることが出来ればとてもうれしいと思います。県教育委員会の皆様には感謝しています。

(高橋座長)

山田委員重ねて何か発言はありますか。

よろしいですか。

県教育委員会はどうですか。

よろしいですか。

他にご質問ご意見ございましたら、お願いします。

(内田委員)

むつ商工会議所の内田でございます。

少しお話させていただければと思います。

もしかすればこれまで複数回会議、議論を行ってききましたが、その議論を壊してしまうかもしれないとも思いながら少し甘えてちょっと発言をさせてもらいたいと思います。

そもそも、この2校の統合については人口減少に伴う子供の人数の減少だったり、先生の人数に関係して、子供たちへの教育環境の充実を図るために必要だということで、この統合案を進めていくということだったというふうにはまず私は認識をしていました。

本日、今日に至るまでの様々な会議の中で行われてきたことを端折って言うと、例えばその県教育委員会だけでなく、学校の先生を含めた教育界だけでなく、広く地域住民の声も聞くよといったことも前提であったはずだと思っています。

地域の声を聞くという理由については、教育施設、建物が地域コミュニティを構成する大

事な大事な1要素であるからだというふうに私は理解をされていて、そうだとすれば地域コミュニティが壊れてしまえば、地域が非常にやせ細り、もしくは無くなってしまうといった可能性があるということについては、議論不要で明確な答えだろうというふうに思っています。

そこで前回の検討委員会、今回の検討委員会の会議があるわけですが、先ほどから聞いていると総合学科と工業科の二つの良さをしっかりと残していきますというお話をいただいています。

これについて反対するところではないんですが、このことについては、これまでの歴史をきちんと大事にするということなのかなというふうに理解をしています。

しかしながら個人的には、この検討委員会の会議、議論に載せるべきもので少し足りないものもあるのではないかとこのように感じています。議論の前提となる諮問機関のかたちを変更しているといったことです。

もっとわかりやすく言うと、まず、教育長が風張教育長に変わったこと、併せて知事の直轄の新たな諮問機関で教育行政の部分をいろいろとやりますと新聞報道でありましたが、機関の中心メンバーとして、審査員としてインフィニティ国際学院の大谷真樹学院長がその職に就いたといったこと、インフィニティ国際学院といった学校はどんな学校なのかなと調べてみると、高校3年間子供たちが世界各国を旅しながら学ぶというような学校です。本当にそのような仕組みができるのかと思いつつ、いろいろと書籍やネットで調べていますが、事実そのような学校があるようです。

そういうようなことから言うと、これまでの歴史も大事ですが、これからこの地域で地域コミュニティを構成する高校として、どのような中身が必要になっていくのかといったことについては、これまでの部分をなぞるのではなくて、どのように描くか、もしくは仮説をたてて想像して作り込むかといった時間が必要だろうなと思っていますし、また先ほど阿部教育長からお話がありましたが、例えばその5年スパンで見たときに、令和9年度のスタート時に既に子供の人数がデータでいくと、その令和9年度でベストかもしれないけれど、その後の10年スパン20年スパンで見たときにどのようになっているのかということ踏まえて、地域コミュニティを構成する学校として、どのような教育内容、充実した教育環境を作るのかということにももう少し議論を突っ込んでいくには、体制など様々なものが変わったということからいくと、一度立ち止まって考え直してみてもいいのではないかと個人的には思います。

このような発言をすること自体、もしかすると会議にそぐわないのかもしれませんが、是非できることであればそれを県教育委員会として、風張教育長や、大谷先生にも、地域の意見として伝えていただきながら、それらをこの部分でどのようなものができていくのかといった、またリターンがあるのか、それとも一度立ち止まるというリターンがあるのか、それも少し考えてもいいのではないかなとこのように思っています。

おそらく先ほど千葉校長先生が話していましたが、未来は今だとお話があったんですが、本当に子供たちの未来を考えると、子供たちもまだ過ごしたこともない、その未来の空気を吸ったこともない、そういった未来の中で、どのような教育がなされていくことがベストだ

と思えるようなものを、我々が責任を持って提供しなければならないと思うと、スケジュールありきではなくてもいいのではないかと個人的には思います。

(高橋座長)

大変難しいお話をされたように受け止めました。

今の発言について委員の皆様御意見はありますでしょうか。

(半田委員)

令和9年4月1日に開校したいという意味がわからない。県の方針で計画を練ってやったわけですので、反対しても拉致があかないので、令和9年に向けて話をしなければならないと私は思います。

浪岡高校も大騒ぎしていたが、とうとう今年度に入ってからあきらめムードで、そうなった方がいいという父兄がいるらしいということも聞いております。

これから毎年100人ずつ減っていき、長いスパンで子供は少なくなっていく、むつ工業高校、大湊高校だけではなく、田名部高校、大間高校も統合しないと学校は成り立っていかないような状況です。

なぜ人数が少ないと大変かという、統合してやらないといけない高校の野球部が何校もあります。3年後には大湊高校もむつ工業高校と組んでやらないと試合に出れない状況だそうです。大湊高校野球部の今年の1年生は3人か4人らしいです。部活をやるにもできない、こんな子供が不幸なことはない。川内中学校には脇野沢中学校から2人ほど野球がやりたいと父兄が連れてきてやらせている。それくらい子供があれをやりたいこれをやりたいと言ってもやれない現状。統合はやむを得ず、最後になれば下北の高校がひとつになる可能性がある。先のことを考えて我々もこの検討委員会で考えていかなければならないと思っています。

(高橋座長)

検討委員会のあり方そのものについて、委員の皆様はこのことについてそう考えますか。

(又村委員)

徳島の阿南光高校ですが、再編計画策定から開設準備委員会の開催まで1年です。むつは4年かけて準備委員会まで話を持って行くという点について、非常にいいやり方ではないかと思えます。

やはりいろいろな意見を集約して、地元の人たちの声を聞いて準備委員会に行くのは、とてもいいのではないかと考えてますし、その点どうでしょうか先生、この阿南光高校が1年で開設準備会を作ったことについて知っていることがあれば教えてもらいたい。

(千葉委員)

この計画が策定されるまでは、ずいぶん様々な反対やいろいろな声があったんですが、それがひとたび策定された時に、その枠の中で、皆さんで最適解を考えられたようです。

もうこれは決まったこと、であれば、使わなくなる校舎をどのようにうまく使うようになるか、どのようにその学科の特徴を出して、教育活動するかということに、話し合いがあったようです。

(高橋座長)

他にありますか？

(阿部委員)

確認をさせていただきたいと思います。

先ほど私も申し上げましたけれども、令和9年度のあり様に関しては、県の教育委員会会議でしっかり決まっております。

議事録を拝見して、県の教育委員は本当に下北地区含め全地区いろいろなことを真剣に考えて議論しています。そして正式に決まりました。我々はこれをベースにして、議論を進めて行くべきだと考えます。

そして、私どものスタンスは、今現在このように県の方針が決まった、ではそれを委員の皆様がおっしゃったように、みんなの知恵を出していいものにしていこう、そういうスタンスで、こういう検討委員会を開いている。

従って今現在決まったものに関しては、もちろん内田委員がおっしゃったように、トップも変わり、教育長さんが、もう1回教育委員会会議で再考を促して、委員の方々が議論して、変えますとなれば、その時は我々は変わった方針に従って議論をさらに深めていくことになると思いますが、現段階では今現在確定されているものについて、それをどういった方法で良いものにしていけばいいのか、そういうふうにして考えていくことが、より具体的な議論になるのではないのかなど、またその役割が検討委員会に与えられたいるのではないかと考えています。

(高橋座長)

それでは、次に前回の検討委員会で県教委より下北地区統合校校舎建築基本計画のご説明をいただきましたが、「子供たちが行きたいと思える新校舎のデザインについて」ご意見をいただきたいと思います。

何か意見等ありますでしょうか。なかなかデザインについて意見は出しづらいかもしれませんが。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 外崎室長)

今教育長のお話もありましたので、関連するのでちょっと一言だけよろしいでしょうか。

県の教育長が変わりました。計画はその前に作られて、様々な経緯を経て教育委員会会議で決まったわけですが、その後、風張教育長になりました。

私達組織ですので、今までの経緯、それから決まった経緯、それから今どういう状況にあるのか、どういったことがお話されているのか、第2回はどんなテーマなのかということ

説明させていただいた上で、今日も参っております。

第2期実施計画の中身も、その前提となる方針も、全ての重要案件でございますので、もちろん県の教育長に御理解いただいて、指示を受けて、私達は今ここに座っているという状況です。

ちょっと説明させていただきました。ありがとうございました。

(高橋座長)

それでは本筋の、子供たちが行きたいと考える新校舎のデザインについて御意見があればお伺いしたいと思います。

いかがでしょうか？

(佐々木委員)

デザインというか、その前にですね。配布されている基本計画の用紙の右側のほうを見ると今の校舎と新しい校舎が記載されています。

先日むつ工業高校の前を通ったときに、校門から校舎までの間が大変狭い感じがしました。その中で新しい校舎を今グラウンドの方に建てる計画となっておりますが、そこに、資材の搬入や、業者の作業員の方々が、多分車で入ってくると思うんですけども、そのときに子供たちの安全をどう守るかということ、それと建設が始まると人が足りなくて、最近外国人労働者の方も入ってくると思いますが、生徒の安全をどう守るか。生徒が、古いほうの校舎で勉強しながら工事を進めるということに対して、私は心配な点があります。

例えば、建設中は大湊高校の校舎を使って、こちらの方には生徒が入らないような形で、建設を進められないのかなという意見を持っています。

その辺の安全対策とかはどうなっているのかちょっとお聞きしたい。

(県教育委員会 学校施設課 加藤課長代理)

工事期間中の子供たちの安全ということですが、当然工事期間中は子供たちの導線と工事車両、工事区画は区切って重ならないように進めさせていただきます。

それと工事期間中、大湊高校の校舎を使って授業をできないかということですが、おそらく大湊高校の空き教室がないと思われます。

また、実習設備など現在むつ工業高校にある設備を使いながら工事も並行して進める必要がありますので、御提案いただきました大湊高校を工事期間中活用するのは難しいと考えております。以上です。

(半田委員)

子供たちの安全と、それから教職員の駐車場が必要になってくると思います。図面上見えていませんが、この辺お聞かせいただきたいと思います。

(県教育委員会 学校施設課 加藤課長代理)

工事期間中、各駐車場や、駐輪場などの配置は設計の中で検討させていただくことになるかと思えます。現在、設計の発注準備中でありまして、その次の会議はいつ頃なのかわかりませんが、そこまでに済ませることができるかどうか、今の時点ではわからない状況です。

(半田委員)

むつ工業高校の場所でなければ駄目だったのですか？

その他に新校舎を作れるような場所が無かったのか、それをお聞きします。

(県教育委員会 学校施設課 加藤課長代理)

現在地を利用して、新校舎を作るというようなことで、進めさせていただいておりましたので、他の場所を使って、建築というようなことは考えておりません。

(半田委員)

野球とか陸上はどこでやるんですか。

学校を解体する1年間、解体の雑音の中で勉強ができるのか。そのようなところを説明してほしい。運動はどうするのか、雑音とか、万が一事故が起きた場合どうするのか考えましたでしょうか。

(県教育委員会 学校施設課 加藤課長代理)

まず、授業で使う運動場は、現在のグラウンドのところに新校舎を建てる予定でありまして、その下のところにサッカー場とかがございますので、そちらの方を体育で使っていただくとか、あるいは近隣の運動施設とかの使用も考えていくことになるかと思っています。市の施設の活用も考える必要があると考えています。

解体工事中の騒音についてですが、騒音の発生はあり得ることだとは思っています。なるべく授業の支障にならないような大きな解体作業は休み期間中に集中してやってもらうなどで対応したいと思っております。

(山田委員)

学校側としてお願いをしようと思っていたのが、工事に入りますと野球場、サッカー場など限られたスペースがまた小さくなります。生徒の活動が制限され、近隣の施設様々ところを活用できないかということで、良い案がありましたら何とか解決する方向に向きたいと思っておりますので、市の関連施設のほうでも御協力いただけないかということをお願いしようと思っておりました。どうぞよろしくお願ひします。

(高橋座長)

ここに当事者がたくさんおりますので、市の方は、なるべく協力していただけるものと思っております。

それでは少し時間も押していますので、先に進ませていただきます。  
デザイン等について、何か地域として、要望などありますでしょうか。

(木村委員)

おそらく、このデザインと言われてもどうなんだろうと思っているのが、大筋なのかなと  
思っておりました。デザインと言われても、なかなか想像がつかないだろうなと思って、来  
たのですが。

例えば、大学などで、みんなが集える場所とか、オープンな場所、そこでいろんな催しを  
したり、例えば、お弁当を食べるなど、そこで実習するなど、というようなことくらいしか  
ちょっと思い浮かばなかったのですが。四角い箱ばかりというイメージでおりますので、そ  
の辺も踏まえて柔軟な教室、オープンに使えて、みんなが集えるような場所というのにも必要  
じゃないかなと。先ほど千葉校長先生が横のつながり、横串を刺すといったところでは、そ  
ういったスペースが絶対必要なんだなという思いがしておりますので、今の意見が反映され  
るかどうかわからないのですが、そういった思い、意見があります。

(高橋座長)

学校施設課から何か発言ございますか。

(県教育委員会 学校施設課 加藤課長代理)

今いただいたご意見は設計の中で、反映できるものについては適切に反映させていきたい  
と考えております。

(高橋座長)

はい、それではこのテーマについて他にありますか。

(濱田委員)

子供たちが行きたいと思えるようなデザインではないのですが、配置図を拝見しまして、  
前回もちょっとお話があったかと思いますが、せっかく統合の話であれば、ぜひ下北や県内  
から子供たちが通えるようなことを考えると、県立高校で寮は難しいのか、私立だと寮があ  
るイメージがありますが、やっぱり下北とは言え1時間以上かけて通う子供もいますし、通  
学費用の免除なども考えているとは思いますが、寮が出来れば通いやすくなるのでは  
ないかと思えます。その辺何か考えているのでしょうか。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

今現在、県立高校の中で寮があるものは、五所川原農林、三本木農業など、農業経営者育  
成高校ということで指定になっているので、その寮があるのですが、それの他には八戸水産  
と名久井農業の4つだけなんです。

やはり農業の基幹産業ということもあって、人材育成の面で作っている寮はあるのですが、

遠いところから通うためのというのは、今存在はしていなくて、それはやはり下宿とか個人で借りたり、そのために、転居したりするところもあると思うんですが、今は遠隔地の寮というのは県ではないところです。

(内田委員)

寮の設置については、濱田委員の御意見を聞いていいなと感じました。

我々で考えられる部分でいくと、例えば下北半島内で行くと、通学にバスや、下宿など様々なことでというお答えでしたが、遠隔地の定義を下北半島内に限らず例えば全県、東北、全国、世界といった場合に、ここに魅力ある高校がもし出来たとしたら、もしくはそういったカリキュラムが可能であれば、そういった宿舎的なものもあれば、そこには子供たちがいろいろなところから集うことになるし、それは地域のコミュニティとして非常にベースが上がっていくこともあると思います。

先ほどから、話が出ている5年ずつ100人ぐらいずつ子供が減っていく部分について、そのまま手をつけずに100人ずつですが何年後に0になるんだって話になっちゃうので、そこではなくて、どのようにここで学びの質を上げながら魅力ある高校を作るのか、寮とがいいのか宿舎がいいのか、わかりませんが、ご検討いただければ、私もいいなと思います。

また、高校ではなくて、大学になってしまいますが、例えば大分の立命館アジア太平洋大学は、行政と学校法人がタイアップして、大規模に宿舎を持って、そこに学生が集って、その町に人が増えるといったことがあったりなど、例えば先ほどから出ている新校舎のデザイン部分についても、例えば、建物が教室でクラスクラスと分かれているのが僕らの中の学校ですが、これから学んでいく子供たち、小学校、幼稚園、これから生まれる子供たちの学びや、僕が想像できる範囲でいけばタブレットでいろいろなところで学びながらということもあるし、世界を見れば、校舎を持たない大学があって、いろいろな学びをいろいろなところとするなど、様々な教育の可能性があると思うので、寮の部分については非常に前向きに検討していただきたいなとも思います。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

今特に何も言えませんが、御意見ありがとうございます。濱田様もありがとうございます。

(高橋座長)

今、全国募集の関係で全国の高校を回っていますが、全国募集の手立ての一つとして、当然のごとく、新しく建築するところもありますけども、圧倒的少数派です。ほとんどが民間のアパートの借り上げや下宿、下宿の良さをこの頃痛感しておりますが、とはいえ子供には下宿はあまり歓迎されていないという話を聞きます。

(千葉委員)

今の子供たちの学びの保証とか、通学など様々な観点で寮をというのは、現場の教員からしてもできたら素敵だろうなと思います。徳島で聞いてきた話ですが、県立の学校ですが、

寮はその町、市が建てている。

やはり、そういうところでむつ市が協力していただければ素敵だなあとと思います。ご検討をお願いします。

(企画政策部 角本部長)

事務局としてちょっとお答えさせていただきますが、はっきり言って、市が寮の運営というのはあまり得意な分野ではありません。

しかしながら以前、高橋先生の開いたフォーラム等にも参加させていただいたときに、あれは島根県の川本高校というところの例をちょっと参考にすると、町がいろいろお金を出して寮を建設して、全国募集かけて、かなりの人数の生徒に来ていただいているという例もあります。

そういった意味で、可能であればというところにはありますが、予算の裏付けも何にもないですが、約束はできませんがそういうものを検討していくということは一つあるかなと思います。

(高橋座長)

余計なことですけども、この寮の建築については、いろんな補助制度がたくさんあるそうです。活用できるものもあるそうです。

(畑中委員)

前回、今回とひと通り皆さんのお話を聞かせてもらいましたが、私達もちょうど明日、中学校と連合の PTA 役員会議もありますので、聞いた内容を皆さんと東通中学校役員みんなで話して、次回までにまた違う意見があるかもしれないので持ってきてたいと思います。よろしくをお願いします。

(堺委員)

先ほど内田委員がおっしゃった最初のことが強く気になっていて。確かに今日の検討テーマで子供たちが望むとか、子供たちが行きたいと思えるというのは、子供たちしかわからない話で、いくら考えても、子供たちの気持ちになれない、そういう気持ちになりましたし、確かに 5 年後、令和 9 年度の子供たちが行きたい新校舎も、特にデザインとかは、未知数な問題だとは思いますが。

寮の話もありましたが、最初の会議の時にも佐井の PTA 会長が、寮のような施設があれば北通りの子供たちも通える、通いたいと思うという事をお話していましたが、大間町も通うとなれば冬道は特に 1 時間以上かかって通わなければならない、そうなる子供たちは朝早く起きて通わなければならないという環境もありますので、ぜひともそういう寮とかができれば、北通りの子供たちも、行きたいと思うような学校になると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

(岩淵委員)

二つお話しさせてもらえればと思います。

まず、下宿の話が出ましたが、私の知っている人で田名部高校にフェンシング競技をやり、今別町からわざわざむつ市に下宿して通わせている親の話を聞いたところ、大変な思いをして通わせているそうです。フェンシングに限らず、野球でもいろいろあてはまる部分があるかとは思いますが、ぜひ、いろんな検討を進めていただければと思います。

もう一点が、子供たちがどんどん減って、高校を選ぶときに、どうしても高校の数が減り選択肢が減ると、自分たちのやりたいことを選択する時に、むつ市から出て行く選択をする子供たちがいて、それに付いていく親も中にもいると聞いた事があります。ぜひ子供たちを集めるのと、同時に、親の仕事も考える必要があると思うので、今後の検討の材料にしてももらえればと思っております。以上です。

(高橋座長)

前回の検討委員会において現校舎の利活用について今後協議をしたいという意見をいただいております。

「両校の現校舎や財産等の利活用について」ご意見をいただきたいと思っております。

何か意見等ありますでしょうか。

(木村委員)

大学の学部を一つ持ってきてほしいです。

空いている校舎に学部を持ってくれば、地域もそれなりに人も増えてくると思っております。

また、先ほどの寮の話についても、空いている大湊高校を活用できるのではないかと思います。以上です。

(堺委員)

先ほど大湊高校の校長先生が話していた徳島高校のことと同じで、タスクフォースを立ち上げて議論した方が、もっと深い有効活用の議論がなされると思います。

(高橋座長)

基本的には県の財産ということですので、県の意向がまず大事ですが、市の意見が当然あって、いいことですので積極的にご提案いただければと思います。

(半田委員)

川内の桧川小学校は木造でとてもいい小学校だった。5年前に廃校になった川内高校も立派で、県のほうでは計画ないですね。私は統合は致し方ないと思っている。いいのはいかなど。生徒数が少ない、各地区に学校がなくなるのは大変ダメージですが、子供のことを思えば致し方ない。

令和9年の新生は今小学6年生で、小学校のPTAがなぜこの検討委員会に参加していないのか。岩渕さんが連合PTAで参加しているけれども。一人か二人、小学校のPTAを増やしたらどうでしょうか。

(高橋座長)

校舎自体はあまりにも大規模なものであれば壊すにも金がかかるし、全国的にも苦勞しているようなんですけど。何かいい知恵があればいいのですが。

(半田委員)

水族館を作ったところもあったかと思いますが。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 森室長代理)

最後に2, 3分ほどということで。

最初に学科の話があって、半田会長や内田会頭それから阿部教育長からも新しい学科を作るべき、市議会からも出たというお話がありましたが、ごり押しをしたくはないのですが、まず第2期実施計画の段階で、学科っていうのは決定しております。

それをご承知の上でおっしゃっているのも、もちろん存じております。そして、ご意見ありがとうございます。

ただ、この学科を決めてきた背景というのがありまして、先ほど阿部教育長がもう決まったものに関しては、それをどういった方向でいいものにしていくかということを議論しようと言ってくださったので、言おうと思ったのですが。むつ工業高校は、昭和30年代の機械科から電気科、設備工業科それから、一時期ICTの関係で電子機械、電子、そして子供がどんどん少なくなって今の学科の3つになって、そしてやはり工業のほうから聞くと、機械と電気というのは工業の中心で、その中に、今まで変化した電子の部分も学びに入れて、そしてエネルギーの部分も学びに入れて2学科2学級になっても、学びにエネルギーも入ったり、電気、それから設備の内容も入り、電子の内容が入りという、そういうパンパンの状態を考えながら学科を決めてきたという背景がありますので、新しい学科の御意見はありがたいのですが、こちらとするとそういうことでむつ工業高校の学科はこれが最善だと思い、進めてきた経緯があります。これだけはちょっとすみません、お話させていただきありがとうございます。

(阿部委員)

確認ですが、令和9年度の学科に関しては全く異論ありません。

ただし、先ほどから申し上げている通り子供が300人を割って、今も0歳児279人しかいないです。

その中で、統合校ができて10年後、279人しか学年の子供はいない、そうしたときに令和9年度は、田名部高校と新設統合校となり、2つの高校で10クラス、その分の先生が来て施設設備が使えて、(聞き取り不可)おそらくそうはならないと思います。現行600人の12

クラスですから、0歳児のときには、大間高校を除いて6クラスから7クラスです。

そうした時のことを考えて、学科を考えてほしいということですので、むつ工業高校の工業科が今最適解であることに異論はありません。しかし議論の焦点はそこではない。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 外崎室長)

阿南光高校の資料の5ページをご覧ください。カリキュラムが載っております。工業科は1年生から専門の事を学んで、選択ABCDEがあります。

この中で工業科も産業創造科も貫いた選択ができるAとBがあります。それから3年生になってまた同じくCDEとステップアップすると思いますが、この中で様々選択科目を増やすことは考えられなくもないということになります。学科を超えるということはこういうことだと思いますので、クロスしたりステップアップして勉強したいということが考えらる。どういう選択があればいいのかということは、御意見いただく範囲であると考えております。

(阿部委員)

何度も繰り返す議論をするのは非常に心苦しいのですが、それを望んでいます。

何度も、弘前実業のように総合選択制にしてくれと言っても、それは出来ない、じゃあ出来なくてもいいから大学科を超えて履修が出来るんですね、それは今は決められない、新しい校長が決めます。こういうやり取りをずっとしてきました。今のお話はそれから一歩も出ておりません。方針方向性ですから、こうした根幹に関することに関しては、決めていただきたい。そのために我々は今検討しています。

お話いただいて、このようにお話するのは大変恐縮ですが、初めての方もお見えになるので、しっかり論点を定めておきたいと思えます。

可能なことは承知しています。可能なことはわかっています、やってほしいのです。出来るかどうかこの場で議論しています。可能なことはわかっています。

(山田委員)

本校が今まで培ってきた地域との連携、地域の方々から力をいただいて、今設定にない土木系とか、職業の部分に至る部分まで、地域の方々から力をいただいて学習に取り組んでおります。非常に感謝しております。

結果、令和9年度は2学科になります。日本全国、学科というもの掲げられ学校内で進んでいますが、ただ、今の新たな部分のスタートという観点で、我々工業のスタンスからどういう学習内容の提供が出来るのか。今総合学科は大きく募集をして、その中で学習をしながら、自分の進路に向かっていくというスタイルです。

ただ工業の部分は、中学校卒業の時点で、ある程度方向性を決めて、入学してからそこからもっと深く学びをする、そういうスタイルを今考えられないかということで、やっております。

先ほど学校の経緯という部分で、今基幹学科は機械系と電気エネルギー、これが残りますけれども、どの産業の基盤になるものと思っております。

今むつ市でも大学とのキャンパス制ということで連携もしていて、この結果も活用できるのではないかと。

あとはむつ工業高校の上に県立の技術専門校があります。ここは建築設備の専門です。地域の財産を活用しながら、新たな部分への取り組みを考えなければいけないと思っており、そういうスタンスでやっております。

また皆様方からいろんな意見をいただきながら、現段階でこの地域の財産をどのように子供たちに提供していくのかという部分で、学校職員、頭を悩ませながら、限られたスペースでどれだけ提供、多様性に向けてできるかということで、千葉校長先生らと議論をずっと交わしております。また今後もそれはしていきたいと思っております。

(県教育委員会 高等学校教育改革推進室 外崎室長)

先ほどの阿部教育長のお話はごもっともです。

先ほど選択 ABCDE というのは、この選択を例えば黄色 A でいくと、27、28 とかかっています。これは 2 単位ということです。それから BCDE も 2 単位ずつ選択科目があります。その中でどの科目を選択させるかということは、これから決めるということです。選択させるのはさせます。それを決めます。何単位にするのか、子供たちにどの科目を選択させるのか、例えば A の中にどういう科目があるのかということは、今後決めるということです。選択はやらせるということです。

(高橋座長)

それではですね、今日はこういった状況にある地元高校の市町村の見解がありますけれども、こういった検討委員会を設置して、地元の意向を反映させようとしている市町村はむつ市だけでございます。

ぜひ教育委員会の皆様方ですね、この雰囲気や県の教育委員会の会議の時に、折を見てぜひ報告いただいて、地元の意見が反映されるようによろしく願います。

今日は皆様方の積極的な発言で大いに盛り上がったのかなと思っております。

千葉校長先生からの他県の状況も理解しながら、議論を進められたと思っております。

どうぞまたよろしく願います。ご苦労様でした。

## 7. 閉会